

先日、野田小学校の校長先生とこんなやりとりをした。

野田小「急な話で申し訳ありませんが、今日、授業参観なんですけど」

野田中「時間は？」

野田小「3校時目と5校時目があるんですけど」

野田中「では、3校時目に行きます」

しばらくすると、野田中学校の3年3組の担任が、4校時目の道徳で、iPadを使って授業を行うという情報をキャッチした。すぐに、野田小学校に電話をした。

野田中「わるいんですけど、4校時目にうちの教員が、iPadを使った道徳の授業をやるそうで、それを参観したいから、やっぱり5校時目に行きます」

野田小「そうなの。じゃあ、4校時目に中学校に行くから」

野田中「それはありがたい。一緒に参観しましょう。待っています」

というわけで、中学校の4校時目の道徳の授業を二人で参観した。充電保管キャビネットから一人一人の生徒が自分のiPadを取り出すところから観察させてもらった。3年3組の生徒は慣れていた。さすがは技術科担当のH先生のクラスである。

授業ではiPadを使った場面は3回のみだった。さほどの時間ではない。少なくともiPadを使うための授業ではなかった。生徒がワークシートに書いた内容をiPadに打ち込み、全員分をホワイトボードに拡大して投影し、どんな考えが出たのか紹介していた。生徒は、他の人がどんな考えをもっているのか知りたいものである。他の人の考えから、さらに自分の考えを深めていく。

午後からは、私が野田小学校に出向いた。まず、6年生4クラスの授業を参観した。少なからず驚かされたのは、6年生が普通にiPadを使い、調べ学習を進めていたことである。次に5年生4クラスの授業を参観した。ここでも、5年生が普通にiPadを使っていた。担当の先生は、ベテランの方だった。聞くと、今年で退職だそうである。そのような方が、授業でiPadを使っている。このことにも驚かされた。

普通にiPadを授業で使っている子どもたちが、まもなく中学校に入ってくる。このままでは、中学校にきてからスキルを伸ばせないかもしれない。早急に、中学校でもH先生を中心に、先生方のための講習会を開き、授業で使えるようにしなければならない。そんな思いを強くした。

H先生は、「校長先生、見にくるなら前もって言ってくださいよ。もう少し発問を考えておいたのに」と言っていた。ということは、この授業は、H先生にとっても、3年3組の生徒にとっても、普段の道徳の授業だったわけである。ワークシートも構造的で、自分の考えを整理しやすくなっていた。H先生は、普段からこのレベルの授業を展開しているのである。

野田小学校の廊下には、たくさんの保護者の方々がいらっしやった。小学校の校長先生が、わざわざ「こちら野田中学校の校長先生です」と紹介してくれたのだが、これには多少困惑した。こう言われたら「来年、お待ちしております」というしかない。5年生のフロアに行っても、紹介された。今度は「2年後、お待ちしております」というしかない。

この日は、収穫が多かった。“ICTは新しい時代の文房具”と言われる理由がわかった。中学校の3年3組でも、小学校でも、もはやiPadは、子どもたちにとって文房具と変わらないのかもしれない。高校からやってきた私としては、認識が甘かったと認めるしかない。子どもの吸収力、適応力は恐るべしである。